

学校名	新地町立新地小学校	校長	渡邊 博之
住所	相馬郡新地町谷地小屋字愛宕1番地		
TEL	0244-62-2006	ホームページアドレス	<a href="http://kankai-shinti.seesaa.net/category/12840001-1.html">http://kankai-shinti.seesaa.net/category/12840001-1.html</a>

## タイトル

# ぼく達の考える新地町の未来 ～環境 再生 共生～

## 取組の概要

新地町は、津波により本校学区内の浜の2地区が流出しました。甚大な被害を受けた自分達の町が今後どのように変わっていくのか、子どもの視点で関心を持たせ、子どもの立場から震災後の町の復興に向け将来の町の担い手として関わらせていくことが、自分の将来を考え希望をもって生きていくことにつながると考えています。本校では、自分達の町の将来について考えていく学習活動を3年生以上の総合的な学習の時間に位置づけました。本校の特色の一つとして豊かなICT環境がありますが、この地域学習を進め



(震災直後の浜の様子)

の上でも一人一台配置のタブレットPC等を十分活用しながら、子ども達に取り組みさせています。ここでは、復興支援関係機関との連携を生かした5・6年生の学習を紹介します。

## 内容

### ● 5年「ハンカチプロジェクト」

JAGDA（日本グラフィックデザイナー協会）と連携して、現在の5年生が昨年度から取り組んでいる地域学習です。子ども達の描いた絵を元にしてデザイナーがデザインしたハンカチをチャリティ販売し、その収益金を町の復興に役立てていこうというプロジェクトです。

昨年度はハンカチを作成し販売しました。今年度はその収益金の生かし方を子ども達が考えて、町の復興推進課やJAGDAへのプレゼンを実施。担当者による審査の結果、収益金は、津波被害の跡地に建設予定している防災緑地の看板に活用することに決定しました。26年度は、防災緑地内の子ども達の広場の看板を作成する予定です。



(自分の絵がハンカチに)

### ● 6年「環境にやさしい自然エネルギー」

復興支援により学校に設置された太陽光発電システムを活用した環境学習です。「見える化システム」を活用して日々の発電量のデータを収集したり、発電の仕組みや特徴、長所や短所などについて課題を設定して調査活動を実施したりしました。

将来に向けたエネルギーの確保に関する問題や、日常生活の中で自分達ができることについて考え、エコポスターを描いて節電節水を呼びかけたり、エコキャップ収集などのエコ活動にも全校で取り組んだりしています。



(発電のしくみを調査)



(見える化システムを活用)

## 参加者の感想

● 「町の復興のために、自分達ができることがあると知ってうれしかった。」  
(5年)

● 「太陽光発電の長所や短所が分かったので、節水節電をがんばってクリーンな町にしていきたい。」  
(6年)

このような町の復興への取組の現状を知り、主体的な体験活動を行うことで、未来への希望を持たせ、郷土を大切に誇りに思えるような心情も育んでいきたいと思えます。